

シリア難民電力分野人材育成支援事業の視察

2018年4月5日、柳大使は、日本の支援を受けてUNHCRが実施する新規プロジェクトの開始式典への参加のためにシリア難民のためのザアタリ難民キャンプを訪問した機会に、セバーレUNHCR代表及び小林JICA事務所長と共に、UNHCR、JICA及びヨルダン電力公社（NEPCO）が連携して実施する「シリア難民電力分野人材育成支援事業」により電力分野での研修を修了したシリア難民が勤務する難民キャンプ内の太陽光発電施設（一日10時間分の電力供給に貢献している由）を視察しました。

研修を修了し、太陽光発電所内に勤務する本件受益者からは、「難民となりヨルダンに避難する以前は、シリア南部のダラーにて電力関連の仕事に就いていたが、研修に参加したことにより、より知識を深めることができた。現在は、太陽光発電施設に勤務することができ、また、配電に問題を抱える難民キャンプ内の家庭の配電網の整備を支援している。研修の機会を与えてくれた日本に心から感謝している。」との発言がありました。

太陽光発電施設前でのシリア難民受益者との記念撮影

